

まちづくり市民アンケートを実施

—市民の皆さんの声を市政に—

まちづくり市民アンケートの概要

調査期間

平成25年7月3日～22日

調査方法

郵送で調査票の送付・回収

対象者数

16歳以上の市民（無作為抽出）1,000人

回答者数

494人（回答率49.7%）

■まちづくり指標【全48項目】

【表1】

推移の状況	指標数
良くなっているもの (目指す方向性どおりに推移したもの)	32項目 66.7%
悪くなっているもの (目指す方向性と反対に推移したもの)	16項目 33.3%

総合計画に基づく事業や取り組みが着実に進んでいるかを数値で測るため、48の「まちづくり指標」を設定しています。

■良い方向に推移した主な項目

【表2】

アンケート項目	今回	計画策定時の基準値	計画策定時との比較
豊かな自然や伝統文化などの地域資源を生かした取組が進み、交流が活発になってきている	36.4%	25.0%	11.4%
災害に強いまちになってきている	55.7%	44.6%	11.1%
行政だけでなく、市民や地域と協働でまちづくりが行われている	49.8%	40.2%	9.6%
医療体制が整い、傷病になっても安心して暮らすことができる	65.2%	57.9%	7.3%
市の職員は、市民の声に耳を傾け、熱心に仕事に取り組んでいる	36.0%	29.7%	6.3%
小・中学校では、子どもたちが学習する教育環境が充実している	49.8%	44.4%	5.4%
市政情報がわかりやすく提供されている	53.2%	48.0%	5.2%
子どもたちの教育に、地域・家庭・学校が連携して取り組んでいる	49.0%	44.0%	5.0%

■悪い方向に推移した主な項目

【表3】

アンケート項目	今回	計画策定時の基準値	計画策定時との比較
住んでいる地域に愛着を感じる	66.2%	73.2%	▲7.0%
マイバックの持参や再利用が可能な環境に配慮した商品を購入している	71.1%	74.3%	▲3.2%
西脇市に住み続けたい	67.6%	70.7%	▲3.1%

まちづくり市民アンケートは、総合計画策定時と同じ質問で継続して実施しています。市民の皆さんが市政や毎日の暮らしについてどのよう感じられているかを調査し、まちづくりに取り組んだ成果を把握します。

今年度のアンケートでは後期基本計画策定時（平成24年度）と比較し、3分の2の項目で「良くなっている」方向

に推移しました（表1）。表2は良くなっている指標32項目のうちの主なものです。平成16年の水害を受けて進めた防災対策で、安全・安心が高まっているようですが、一方で浸水被害も発生しており、継続的な対策が必要です。また、学校の改築・改修に伴い、教育に対する満足度が高まっていると考えられます。

表3では、悪くなっている

指標16項目のうち主なものを示しています。「愛着を感じる」と回答する割合は60歳代を除く各年代で低下しており、「西脇市に住み続けたい」と回答する割合も3・1%低下しています。

望ましい方向に推移した項目が多い一方で、それが総合的な満足度を向上させることにつながっていないことが懸念されます。

西脇市自治基本条例ができて、何が変わるのかわかりません。

自治基本条例ですぐに市民の皆さんの生活が大きく変わるものではありません。

市民の皆さんが条例に定めている市政に参画する制度を活用いただき、行政はこれまで以上に開かれた市政運営を行うことで、市民の皆さんの意見を反映した市政運営やまちづくりが実現できると考えています。

給食センターが新しくなりました。旧施設をそのまま使うことはできなかったのでしょうか。

旧西脇学校給食センターは昭和45年建設で、構造上、国の安全衛生基準を一部満たせないなどの課題がありました。

そこで、子どもたちの安全面を第一に考え、合理化を進めるために施設を統合して整備しました。

旧黒田庄給食センターは売却により財源確保に努めます。

携帯電話を見ながら自転車に乗っている方がいます。交通マナーを守れる人を増やしてほしい。

自転車も道路交通法の対象になります。自転車事故で多額の賠償責任を負う事例もありました。

全国・県の交通安全運動等の際に街頭啓発を実施していますが、防災行政無線など、より多くの方に啓発していく方法を検討し、交通事故抑止・防止につなげていきます。

最近では異常な猛暑となることがあります。小・中学校に空調設備を設置すべきだと思います。

市内の小・中学校の全12校に空調設備の設置を進めています。平成26年の夏から使用を開始する予定で、気象状況なども考慮しながら使用していきます。

図書館が市の中心から移転して不便になるように思います。市民が使いやすい仕組みを考えてほしい。

野村町茜が丘に図書館機能を持つ複合施設を建設しています。平成27年度の開館に向け、コミュニティバスの運行形態の見直しや、施設のバリアフリー化などを進めます。また、市内公共施設等に貸出返却窓口を設けるなど利便性が高まるよう検討します。

道端で犬のフンをさせている人がたくさんいます。マナーの啓発をお願いします。

犬のフンについては、市に多くの苦情が寄せられています。定期的に防災行政無線で啓発し、保健衛生推進委員と連携して啓発チラシの回覧などを行っています。なかなか無くならないのが現状です。今後も犬のフン等のマナーの啓発を続けていきます。

休日・夜間に小児科を受診できるようにしてほしい。

休日や夜間の救急医療体制は、限られた医療スタッフで運営されています。北播磨でも小児医療が続けられなくなった病院もあり、医師たちの努力で小児救急が続けられている状況です。

西脇病院小児科では、2名の常勤医師と1名の応援医師が診療を行っています。今後も小児救急を続けていくには、医師の負担を少しでも和らげることが必要です。診療時間内に「かかりつけ医」を受診するようお願いします。

もちろん、休日、夜間の緊急時は、消防署の案内に従い、小児救急医療機関を受診してください。

皆さんの声

「まちづくり市民アンケート」でお寄せいただいたご意見は、子育てや医療、福祉、雇用に対する意見が多くみられ、さまざまなサービスの充実を求める声がありました。同じ施策に対して相反するご意見もあり、慎重に分析する必要があります。市民の皆さんの大切な声をしっかり受け止め、今後のまちづくりを進めていく上で、参考とさせていただきます。



大学を卒業しても、地元の求人はサービス業の職種が多く就職先がありません。

大卒者の多くが希望する業種や部門は都市部に集中し、地方では工場立地のニーズが中心となっています。このため、本市でも管理部門や技術部門などの職種の採用が少なくなっています。

就職先を増やすことは市の取り組みだけでは難しい面もありますが、立地環境や地域特性を生かし、大卒者が専門能力を発揮できる企業の誘致に取り組んでいきます。

昨年、大型スーパーが閉店しました。今後、新しい店舗は開店しないのですか。

店舗側と地権者との契約期間終了に伴って閉店しました。地権者と協議し情報収集を行っています。地域経済が冷え込み、近隣に大型スーパーが多くある中、新たな出店者は見つかりません。

閉店場所は、市では商業施設進出を進めるゾーンとして位置付けており、今後も関係者と連携して、地域のにぎわいを取り戻すための活用策を検討していきます。